

オレノ通信 Vol.④

佐々木まゆみ市議会活動レポート

2013年9月発行

発行元／仙台市議会公明党市議団 仙台市議会議員佐々木まゆみ
仙台市宮城野区幸町2-21-11 TEL022-707-7462 メールアドレス sasaki@sendai-komei.jp

震災より2年半が経過。 初心を忘れず全てに 全力で取り組みます。



震災から2年半が過ぎました。

2015年3月には、国連防災世界会議が仙台で開催される事が決定しました。丁度震災から4年目と重なる事から、被災された方々の生活再建や新しい街・仙台の進捗を日本中、世界中の方々に御礼を兼ね知って頂く大きな場となります。

その為にも、一日も早い復興が望まれます。また「心の復興」はまだまだ、これからです。みなさんが安心して暮らせる日まで、みなさんに寄り添い、みなさんの声を聞き、働いて参ります！

皆様のご支援で初当選させて頂いてから早2年が経ちました。6月には一般質問に立たせて頂き復興への一層の取り組みや心のケアなどについて質問を致しました。(詳細は中面)。

今後も初心を忘れる事なく安全な街づくりのため、そして、生命を守る環境作りのため、全力で取り組んでまいります。

佐々木まゆみ

第2回 東北新市議会議員研究会に参加

第二回目となる今回は7月2、3日、福島市で開催。福島市長・福島市議会議長の挨拶のあと、「3.11の教訓から福島の危機管理について」講演があり、その後6つのグループに分かれ各自治体の危機管理について意見交換会を行いました。

福島市の災害対策は放射能のモニタリングや健康管理や食の安全対策、そしてストレス・風評被害への対策と、自治体よっての違いを改めて確認しました。

翌日は市内にあるモニタリングセンター・さんどパーク・ぴよんぴよんドームを視察。さんどパークとは市民会館内屋内遊び場の事で、大型砂場、ボールプール、トランポリンなどを整備しております。

一日も早く外で思いっきり遊ぶ日が来ますよう、私も努力して参ります。



第2回 東北新市議会議員研究会の様様



さんどパークを視察



ぴよんぴよんドームを視察

被災者に寄り添ったきめ細かな復興政策を提言。

平成25年6月19日



復興公営住宅の入居に関わる諸課題について

【佐々木議員】

復興公営住宅への入居意向調査を踏まえ、入居募集に際し、高齢者のみの世帯・障がいを持つ方のいらっしゃる世帯・ひとり親世帯・多子世帯など子育て世帯への優先枠が設けられました。

それに加えて、「子どもの通学の学区内枠」を導入すべきと考えますがいかがでしょうか。

【奥山市長】

募集にあたっては、優先入居、優先順位、コミュニティ入居や一般抽選の優遇措置など様々な対応をしておりますので、さらに通学に配慮した優遇を行うことは難しいものと考えます。

今回公表した募集方針においては「3人以上の子供がいる世帯」「未就学児がいる世帯」などの子育て世帯の当選確率を優遇することとしました。

他都市からの移住希望者を配慮せよ

【佐々木議員】

震災で身内を亡くされて、娘さんを頼って宮城県内から東京に避難された方からご相談がありました。全てを失ってしまったから、元の場所には戻りたくな

いが、知人の多くいる仙台で暮らしたい、とのことでした。本市で被災をしながら一時的に他都市に避難されている方や、他都市で被災し諸事情から本市の復興公営住宅に入居を希望する被災者へ、入居の受け皿を考慮すべきと考えますが、ご所見を伺います。

【奥山市長】

本市で被災し、他都市に避難されている方や、市外被災者で、本市に住民登録をしている方について、入居申込みにおける制限はございません。

なお、他都市被災者で、本市に住民登録のない方につきましても、申込みは可能ですが、間取りごとの応募人数が募集戸数を下回り、空きが生じた場合に入居者選定の対象としています。

連帯保証人等の条件を緩和せよ

【佐々木議員】

復興公営住宅入居希望者は、市営住宅の入居手続きと同様に、連帯保証人1名を立てること、どうしても立てることが難しい方については、緊急連絡人の提出でよい場合もある、とのこと。条件により入居を諦め将来を悲観してしまう方が出ないように、入居手続きの簡素化を求めますが、ご所見を伺います。

【奥山市長】

市としてこれらの条件に合う方を探すことが難しい場合には、個別の事情をお伺いしながら柔軟に対応して参ります。

ご指摘があったような様々なご事情を抱え、不安や悩みをお持ちの方がおられることは認識しており、情報提供や相談会の開催など、きめ細かな対応に努めてまいります。

被災者への心のケアについて

【佐々木議員】

本市では、これまでも行政が中心となり保健師等による家庭訪問での健康支援、地域包括支援センターなどと連携した支援、コミュニティ維持を図る為の自治会等などの活動支援、借り上げ民間賃貸住宅への戸別訪問や生活相談など、社会福祉協議会やNPO、パーソナルサポートセンター等、多くの手を打って頂いております。こうした時に、家族だけではなく、近くで見守るゲートキーパーの存在が重要となってくると思いますが、これまでの取り組みの効果も含めご所見を伺います。

【奥山市長】

本市では、震災直後から、区保健福祉センターや精神保健福祉総合センターが連携して、避難所や仮設住宅における保健活動に、積極的に取り組んでまいりました。

東北大学の公衆衛生研究グループからも一定程度の評価を頂いております。しかし心のケアの取り組みは長期的なタームで評価されるべきものですので、今後とも引き続き被災者への支援に努めてまいりたいと考えております。

「こころの体温計」を導入すべきである

【佐々木議員】

日常のストレス状態を自己チェックする「こころの体温計」の導入についてです。これはパソコンや携帯電話を使って、その時の自分のストレス状況をチェックしながら心のケアにつなげていくきっかけを作るものです。これらの取り組みを進めるべきと考えますが、ご所見をお伺い致します。

【奥山市長】

心の不調は、体の不調と比べて自覚しにくいことから、本市では精神保健福祉総合センターのホームページや心のケアのパンフレットにおいて、市民の方が心の健康状態を確認できるチェックシートを掲げています。今後「こころの体温計」の導入の可能性を検討してまいりたいと考えております。



建設中の復興公営住宅(田子西)



建設中の幸町高層整備(幸町)

宮城総合支所並びに宅地被害現場視察



太陽光パネルを視察



宅地復旧工事現場を視察

避難所等への防災対応型太陽光発電の導入の一貫として拡張型システム構成を取り入れている宮城総合支所を視察。購入電力量を削減し、災害時の電源確保にも備えます。また、仙台市が施行する宅地復旧工事第1号となった泉区松森字明神地区へも視察。5月20日に完了し現在は住宅の建設にも着手しております。

障がい者団体の方々と日常の問題点について懇談(6月24日)

6月24日、障がい者団体の方々との懇談をさせていただきました。歯科や婦人科検診の際、問い合わせをし受け入れてくれる所を確認してから受診されていたりと、様々な弊害の声を聞かせていただきました。



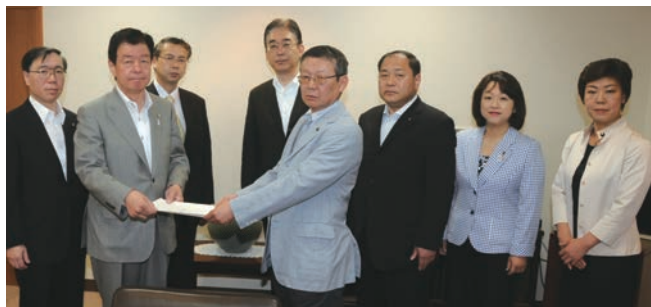
岡田小学校の津波避難訓練に参加(6月12日 防災の日)

35年前の1978年(昭和53年)6月12日、宮城県沖でM7.4の地震が発生。震災後2回目となる市民防災の日、岡田小学校にて生徒と地域の方々と一緒に総合防災訓練に参加しました。校舎3階への避難訓練後、体育館では備蓄の確認をし、女性の着替えや授乳スペースとして活用できるBOXを確認。2畳ほどのスペースですが、女性にとっては大変有りがたいBOXです。



女性の着替えや授乳スペースとして活用できるBOX

仙台市へ風疹予防接種の全額助成申し入れ(5月21日)



全国的に流行している風疹の予防接種の全額助成を求め、市へ5月21日申し入れを行いました。その結果、5月31日に助成決定。6月10日からスタートしました。妊娠を希望もしくは予定する19歳～49歳の女性、並びに妊娠している女性の夫が対象、4月1日から接種をされた方も申請する事で還付対象となります。未来を担う子供の安全も守ります。

仙台市長へプレハブ仮設住宅のアンケート調査の要望書提出(7月5日)

3回目のアンケート調査を行い、皆様の要望を7月5日奥山市長へ申し入れを行いました。また、これに先駆け宮城県知事へも6月20日申し入れを行いました。一日も早く仮設から出られる様、みなさんの声を行政に届けていきます。

